

松竹梅しょうちくばい
(松口月城)まつぐちげつじょう

寿福じゅふく 愈いよいよ 開ひらく 松竹梅しょうちくばい

君きみが 家いえ 今日こんにち 是これ 蓬菜ほうらい

亀かめ 遊あそび 鶴つる 舞まい 人ひと 還また 酔よう

無む限げんの 歡かん懷かい 玉ぎよ杯くはいに 在あり

壽福愈開松竹梅 君家今日是蓬菜
龜遊鶴舞人還醉 無限歡懷在玉杯

解説 この詩は、縁起のよい詩語を並べ祝福の気持ちを述べたもの。

語釈 ※松竹梅||松と竹と梅と、三つとも寒に堪えるので、「歳寒の三友」と呼び、めでたいものとして慶事に用いる。※寿福||命が長く、幸せなこと。※愈||ますます。※蓬菜||蓬萊山。中国の伝説で、東の海中に仙人が住むという霊山。※無限||かぎりないこと。

※観懷||おもむき。心がひかれること。※玉杯||さかずきの美称。玉を彫って作ったさかずき。

通釈 寿命が長く、幸せがいよいよ聞けてくる。蓬萊山にかたどって縁起のよい松竹梅が飾られた君の家には、いま亀は遊び、鶴は舞い人もまた、めでたい玉杯に酔うて、無限の歡懷にひたるのである。と、松竹梅に題して慶事のおもむきを詠んだ詩である。